

(様式 2)

## 「秋田大学みらい創造基金学生海外派遣支援事業」帰国報告書

記入日： 2019年 12月 21日

所属： 教育文化 学部／研究科 地域文化 学科・課程・選修／専攻  
3年

氏名：木内 友麻

派遣先大学名（国）ニューファンドランドメモリアル大学（カナダ）

在籍身分：留学

派遣期間：約四か月間

渡航年月日：2019年 8月 31日

帰国年月日：2019年 12月 15日

### ○派遣先大学における授業等の履修状況

（履修した講義名，講義の履修期間，週当たりの講義時間，修得単位数などを確認できる成績表（写）等の添付）

	IEP-G				
	Monday	Tuesday	Wednesday	Thursday	Friday
8:30-9:20					
9:30-10:20	<b>Integ. Skills</b> N. Penney-Toba AS350	<b>Integ. Skills</b> N. Penney-Toba AS350	<b>Integ. Skills</b> N. Penney-Toba AS350	<b>Integ. Skills</b> N. Penney-Toba AS350	<b>Integ. Skills</b> N. Penney-Toba AS350
10:30-11:20	<b>Discussion Group</b> AS326	<b>Gram&amp;Vocab</b> N. Bailey AS329	<b>Gram&amp;Vocab</b> N. Bailey AS329	<b>Gram&amp;Vocab</b> N. Bailey AS329	<b>Integ. Skills</b> N. Penney-Toba AS350
11:30-12:20	<b>Academic Skills Supplement</b> N. Bailey/AS329	<b>Integ. Skills</b> N. Penney-Toba AS350	<b>Integ. Skills</b> N. Penney-Toba AS350	<b>Integ. Skills</b> N. Penney-Toba AS350	<b>Discussion Group</b> AS350
12:30-1:20					
1:30-2:20		<b>EverdayEnglish</b> T. Young AS329	<b>Discussion Group</b> AS329	<b>EverdayEnglish</b> T. Young AS329	<b>LangThroughLit</b> N. Bailey AS329
2:30-3:20	<b>Culture &amp; Society</b> N. Penney-Toba AS350	<b>Language Lab</b> T. Young AS364		<b>Language Lab</b> T. Young AS364	
3:30-4:20		<b>Rsrch&amp;Debate</b> AS329 T. Halford		<b>Discussion Group</b> AS350	
4:30-5:20					
5:30-6:20					
6:30-7:20					

履修期間は2019年9月1日から、11月29日まででしたが、12月2日、3日に最終テストがあったので、すべてのプログラムが終わったのは12月3日でした。週当たりの

講義時間は 25 時間、修得単位数は語学留学だったのでゼロです。

### ○研究・学習概要及び今後の勉学計画

(受講した講義の内容, 留学したことを本学での卒業論文や将来に向けてどう活かしていくか等)

今回の留学では、語学学校に通っていたということで、毎日英語の授業のみがありました。そこで培った英語力を生かすために、様々なことに英語で挑戦をしたいと思います。具体的に言えば、三年次の必修科目のプレゼン、また、卒論も英語でやる予定です。留学期間中の授業では、ライティングのテストや、個人のプレゼンもあったので、そこで学んだこと、培った自信を武器に、在学中は自分の英語力をフル活用できるようにしていきます。また、今回の経験で、人間として大きくなったように感じます。留学は怖かったし、不安もたくさんありました。もちろん、トラブルも何度かありました。しかし、留学を振り返ってみると、とてもいい経験ができた、充実していたという風を感じられるのはそれらを乗り越えられたからだと感じます。父親には小さいころから、苦勞は買ってでもしろ、という風に教え込まれてきました。留学は自分にとっては大きなチャレンジでした。たくさん苦勞もしました。しかし、その苦勞のおかげで自分は成長できた。父親が言っていることがようやくきちんと理解できた気がします。このように感じられるようになったのが大きな成果です。また、留学は自分についてたくさん考えるいいきっかけになりました。なぜ自分は英語を学びたいのか。自分は海外と日本の懸け橋になりたい、と思っていることに気づきました。英語のすばらしさにも触れることができました。英語を話すことができればどの国の人ともかかわりを持つことができます。こんなに素晴らしいことはない、と感じながら留学生活を送っていました。もともと好きだった英語がもっと大好きになりました。まずは就職活動のために TOEIC で自分の目標点数を取るのを目標に英語の勉強を続けたいと思います。就職先も英語を使う企業をリサーチしているので、英語をたくさん使う企業に就職し、将来は日本語と同程度の英語が話せる人間になり、日本がグローバル化の波に揉み消されないように、日本のためになる仕事を英語を通じてしていきたいと思います。

### ○生活面について

(現地の学生との交流, 寮・下宿, 食生活, 習慣の違い・マナーなど)

現地の学生との交流はあまりありませんでしたが、同じ語学学校に通っていた留学生との交流はたくさんありました。たくさん語学学校の生徒たちのイベントがあったので、交流を深めることができました。寮ではルームシェアをしていて、二人の

カナディアン、一人のインディアンと住んでいました。初めてのルームシェアということでたくさんトラブルはありましたが、楽しく生活をすることができました。寮では各自寝室があり、キッチン、お風呂、リビングルーム、トイレを共有していました。毎日寮でルームメイトが気さくに話しかけていて、いつもくだらない話をしていました。最初の頃は聞き取ることが困難だったネイティブの英語も気が付けば聞き取れるようになっていて、ルームメイトも、お前はもともと英語が話せていたけど、もっと成長したね、と言ってくれ、それが本当にうれしかったです。食生活に関しては、日本のお米をスーパーで買うことができたので、毎日自炊をし、食事に困ることはなかったです。また、お寿司を食べれる機会が何度かあったので、日本食はそこまで恋しくならなかったです。習慣の違い、マナーなどに関しては特に問題はありませんでした。皆が皆文化の違い、宗教の違いを尊重していたために、トラブルなどはありませんでした。インディアンの友達のほとんどがお酒を飲まないのですが、一緒にバーなどお酒を飲む場に何度か行ったときに一滴もお酒を飲んでおらず、宗教がどれほどその人たちにとって重要なのか、また厳しいものなのか、ということを考えさせられました。

#### ○その他留学全般にわたる感想

本当に有意義な時間が過ごせました。勉強だけでなく、友達とたくさん楽しい時間を過ごすことができ、友達と会うために海外に行く、という大きなきっかけも手に入れることができました。英語が話せれば、外国人の友達をたくさん作ることができます。私は何度も不思議な気持ちになりました、なぜ他言語が母国語の人たちとコミュニケーションが取れているのか。英語は本当に素晴らしい言語です。話す言葉、文化、宗教、何もかもが違う人と仲良くなれるからです。英語が話せるようになり、外国人の友達がたくさんできたことで、英語のすばらしさに気づくことができました。一番大きな発見だったと思います。留学は、ただ単に英語を勉強するだけでなく、人間を一回りも二回りも大きくする経験の場だと思いません。留学はみんな最初は怖いと感じると思います。不安だったりとか。もちろん、いろいろな想像できないシチュエーションに直面することが多々あります。しかし、そこをどう乗り切るか。乗り切った後には自分が成長したことを実感できると思います。私はそれを実感できました。英語が向上しただけでなく、人間としても成長できた気がします。このように私に思わせてくれたのは、Grenfell campusのおかげだと思います。約四か月間有意義な、貴重な時間を過ごさせてくれたGrenfellに感謝しかないです。今後秋田大学からGrenfellに留学に行く生徒が増えれば良いなと思っています。成長して帰ってくることができたことを光栄に思います。

(様式 2)







### ○渡航費補助について

寄付をしてくださった皆様、本当にありがとうございます。自分的には、寄付していただいたということに恥じないような、とても素晴らしい留学生活を送ることができたと思います。現地に行くことで、自分が今まで感じたことがないもの、触れたことがないものとふれあい、自分の視野が広がった気がします。このような貴重な経験を「寄付」という形で支援、手助けしていただいたことに感謝してもしきれないです。正直、留学に行くことを決める前は、「未来創造基金」のことを知りませんでした。秋田大学の学生で渡航費援助があるということを知っている人は少ないと思います。私は未来創造基金さんにサポートをしていただいた恩返しとして、このことをたくさんの人に伝え、秋田大学からより多くの留学生を排出する手助けができればうれしいです。それに加え、自分が経験したことを発信していき、留学のすばらしさをより多くの生徒に伝えることができればよいなと考えています。このように考えられるようになった自分の人生の中で最も価値のある経験である留学のサポートをしてくださった皆様、本当にありがとうございました。今後もこの経験を活かし、自分の希望通りのキャリアに進むため努力してまいりたいと思います。